

町内遺跡 23

平成18年度町内遺跡発掘調査概要報告書
(越田遺跡 2 次調査)
(県指定史跡「富田村古墳」確認調査)

2 0 0 7

宮崎県児湯郡・新富町教育委員会

序

新富町の文化財保護については日頃から深い御理解をいただき厚く御礼申し上げます。

本年度も町内の開発行為に伴う1遺跡の確認調査と、県指定史跡「富田村古墳」の史跡確認調査を行いました。このうち「富田村古墳」の史跡確認調査は、今年度で3年目をむかえ、指定墳の現状が徐々に明らかになりつつあります。同じく町内に存在する国指定史跡「新田原古墳群」とともに、県内の古墳時代研究には欠かせない資料となることが期待されます。

本町はこれら文化財の保護を推進し、学術研究はもとより広く生涯学習の素材として活用していく考えです。

最後になりましたが、調査に際してお世話になった関係各機関の方々に深く感謝を申し上げます。

平成19年3月

新富町教育長 下村 喜秋

例言

1. 本書は平成18年度に宮崎県児湯郡新富町教育委員会が実施した緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 発掘調査は、国庫補助事業「町内遺跡発掘調査等」を適用して行った。
3. 各遺跡の調査期間は本文中の表1～2に明記した。
4. 本書で使用した位置図は国土地理院発行の2万5千分の1図を基に作成し、調査範囲図はそれぞれ平板実測にて作成した200分の1測量図をもとに作図した。
5. 本書で使用する方位は座標北（座標第Ⅱ系）であり、レベルは海拔絶対高である。
6. 遺構実測は、樋渡将太郎がおこなった。
7. 遺構・遺物の写真は樋渡が撮影した。
8. 整理作業は新富町教育委員会で行い、遺物実測及びトレースは樋渡が行った。
9. 本書の執筆・編集は樋渡がおこなった。
10. 出土遺物その他の記録はすべて新富町教育委員会社会教育課に保管してある。

本文目次

I. はじめに	1～4ページ
II. 平成18年度の確認調査	5ページ
III. 富田村古墳（天神平地区）	8ページ
V. まとめ	12ページ



新富町位置図

I. はじめに

1. 新富町の位置と概要

新富町は宮崎県中央部の日向灘沿岸に位置し、県庁所在地である宮崎市から約20km北にある。

北西部から南東部にかけては一ツ瀬川が蛇行しつつ東進し、その流域左岸部の沖積平野と標高70～90mの台地面にかけて町域を有する。町面積は南北約7km、東西約9kmの約61km²で、隣接する市町村には西に西部市、北に高鍋町、南に宮崎市がある。

主幹産業は酪農や園芸を中心とした農業で、台地の中心部には航空自衛隊新田原基地があるため「やさいと基地の町」のイメージが強い。人口は約19,000人で、近年の道路交通網の整備にともない本町での宅地開発が活発になっているため、不況下にあっても人口は緩やかな増加傾向にある。

2. 新富町の文化財保護

町では昭和43年に文化財保護審議委員会を設置し、町内の文化財保護を推進している。指定文化財は国指定2、県指定2、町指定6があり、内訳は史跡2、天然記念物3、無形民俗3、有形文化財2である。

天然記念物には湯之宮座論梅・春日のイチョウ・アカウミガメの3件が指定されている。それぞれ下草管理や徒長枝剪定などを行っている。アカウミガメは列島の海岸面積の減少に係り、毎年上陸頭数が少なくなっており、県下一斉の保護対策が求められている。無形民俗文化財には湯之宮棒踊り、元禄坊主踊り、新田神楽がある。各団体の自助努力により活発な活動が行われており、後継者を含めた総合的な支援が求められる。有形文化財には三納代神社の釈迦如来座像と飯島神社の薬師如来立像があり、ほかに保存状態の良くないものや製作年代の古いものが多い。

埋蔵文化財は開発行為によって消滅する頻度が高いため、年間を通じて調整・調査を行っている。史跡では国指定新田原古墳群の史跡整備を進行中で、平成9年度から発掘調査を行っている。

また町ですすめる総合文化公園整備事業で既存の文化会館のほかにも図書館・歴史資料館を建設する予定があり、この歴史資料館（仮称）を中心に古墳群やその他文化財にガイドランスや案内板を設置し、見学や学習に寄与する予定である。

3. 埋蔵文化財の調査

昭和50年代に始まった畑地帯のほ場整備にともない埋蔵文化財発掘調査がかなりの面積にわたって行われてきた。これら大規模調査の成果によって、1982年に行った遺跡詳細分布調査における「周知の遺跡」はその数が飛躍的に多くなった。

また、近年の町内における開発行為によって、周知の埋蔵文化財包蔵地外からの遺跡の発見が相次いだ。このため平成16年度から18年度にかけて「第2次遺跡詳細分布調査」を行い、18年度中にその成果をまとめた「新富町の埋蔵文化財（改訂版）」を発行する予定である。



- A 越田遺跡
- B 富田古墳群 (天神原支群)
- C 新田原59号墳
- D 五反丸地区

第1図 平成18年度に調査した遺跡

1 【調査体制】

総括	下村 喜秋 (新富町教育委員会 教育長)
	高藤 久明 (同 社会教育課 課長)
	河野 裕 (同 社会教育課 課長補佐 兼 社会体育係長) ~ 6月
	福原 広一 (同 社会教育課 課長補佐 兼 社会体育係長) 7月 -
庶務	松本美奈子 (同 社会教育課 主任主事 : 庶務担当)
調整・調査	有馬 義人 (同 社会教育課 主査 : 文化財担当)
	樋渡将太郎 (同 社会教育課 主任主事 : 文化財担当)
作業員	杉尾美千子、甲斐晴子、甲斐直美、坂本貞夫、溝口敦子、満尾智美、清美貴子

表1 平成18年度発掘調査一覧

	遺跡名	所在地	調査期間	申請者	面積	内容	遺構・時期
1	富田古墳群	上富田字天神平	7/24 - 9/15	新富町長	12,703	史跡確認	円墳の露石
2	新田原68号	新田字東保	10/3 - 10/26	新富町長	40	史跡整備	前方後円墳の周溝
6	新田原59号	新田字東保	10/27 - 3/30	新富町長	50	史跡整備	後期の前方後円墳

表2 平成18年度試堀確認調査一覧

	遺跡名	所在地	調査期間	申請者	面積	内容	備考
1	越田遺跡	日置字越田	6/7 - 6/20	民間	70	民間開発	遺構なし
2	五反丸地区	三納代字五反丸	6/21	民間	10	民間開発	遺物・遺構無し

4. 文化財啓発活動

生涯学習や学社融合の一環として、町内外から文化財についての講演や見学会、勉強会等の要望が寄せられることが多い。町教委ではこれらの要望に応えるため、文化財の普及啓発活動の一環として下記の事業を行った。

表3 新富町の文化財啓発活動

月日	内 容	講師・担当	対 象	人数
4/27	新田原古墳群の見学（百足塚古墳）	橋渡	富田小6年	60
4/28	新田原古墳群の見学（百足塚古墳）	橋渡	富田小6年	60
6/4	富田浜清掃（アカウミガメ関連）	有馬	一般	400
8/4	富田小文化財愛護少年団活動①「地域間交流」	橋渡	団員	15
8/18	富田小文化財愛護少年団活動②「石器作り」	橋渡	団員	15
9/10	上新田っ子を育てる会「埴輪作り」	有馬	一般	60
11/3 12/24	百足塚古墳出土埴輪展示会（文化会館）	有馬	一般	-
11/11	新田原古墳群古墳祭	社会教育課課員		100
11/13	富田小文化財愛護少年団活動③「博物館見学」	橋渡	団員	15
12/24	百足塚古墳埴輪展示記念講演	宮崎大学	一般	30
3/10	富田小文化財愛護少年団活動④「レンコン掘り体験」	橋渡	団員	15



II. 平成18年度の試掘確認調査

1 越田遺跡試堀（2次調査）

(1) 位置と調査の経緯

越田遺跡は新富町の市街地の北、大字日置地区にあり、西側には日置川が流れ、東側では日向灘を望める南北に伸びる丘陵性台地の南側に位置する。越田遺跡は平成10年に土砂採取に伴う調査が行われ⁽¹⁾、弥生時代中期初頭～前半期に相当する土器が出土している。また、越田遺跡の南には中世山城と考えられている越田城があり、日置川を挟んだ向かい側には、鎧遺跡や今別府第1、第2遺跡といった弥生時代から古墳時代にかけての遺跡が存在する。

平成18年5月頃、町内の建設業者から越田地区内に土砂採取を行いたいとの連絡があった。町教育委員会では、今回の範囲が平成10年に行われた土砂採取の延長であり、周知の埋蔵文化財包蔵地である越田遺跡の範囲に含まれることを確認した。そのため、業者側と協議を行い試掘調査を行うことになった。平成18年6月7日から開始し、6月20日に終了した。

(2) 調査の概要

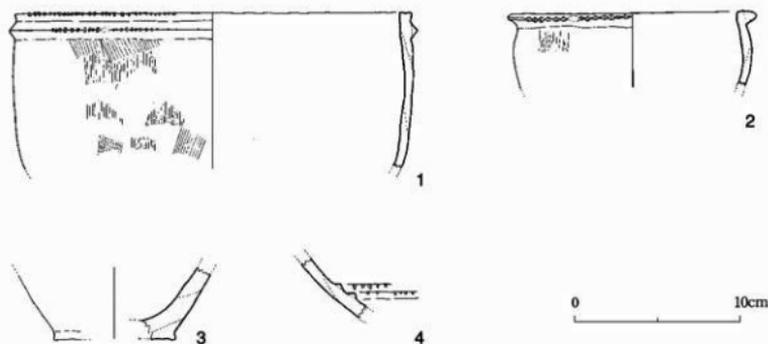
調査区は南北に続く丘陵性台地上にあり、平坦地はほとんどない。現地踏査を行った結果、調査対象区のほぼ中央の緩斜面部から土器片を採集したことから、土器採集地点および丘陵の頂上部に7箇所のトレンチを設定して人力で掘削を行った。



第2図 越田地区周辺遺跡



第3図 越田遺跡トレンチ配置図



第4図 越田遺跡出土遺物

(3) 出土遺物

調査の結果、頂上部からは遺構、遺物ともに確認できなかったが、先の現地踏査で遺物を表採した場所に近い4～6トレンチで弥生土器片を確認した。ただし、いずれも原位置ではなく他所からの流れ込みである可能性が高い。

1は下城式の甕の古いタイプと考えられる。推定口径約24cmで、直立気味に立ち上がる口縁部の直下に断面三角形の突帯を設けている。口唇外縁と突帯には刻み目を施している。外面はハケ目調整が施され、内面は摩滅が激しいが丁寧なナデ調整と考えられる。胎土はやや粗く、1～2mm程の砂粒が多く含まれている。色調は内外面とも明黄褐色である。2は小型甕の口縁部で、推定口径約15cm。口縁部に刻み目をもつ突帯を設けている。外面にはミガキ、内面にはナデ調整が施される。胎土は粗く、2mm程の砂粒を多く含んでいる。色調は外面が浅黄橙色、内面はにぶい黄橙色である。3は甕の底部と推定される。推定底径は約6.5cm。4は甕の肩部と思われる。肩部が張るタイプと推定され、断面三角形の刻目をもつ突帯が2条施される。内外面ともミガキ調整が施され、外面は丹塗りが認められる。胎土はやや粗く、1～2mm程の砂粒を多く含む。

(4) 小結

今回の調査では遺構は検出できなかったが、特徴的な土器が出土した。これらは、銚遺跡²¹や越田遺跡1次調査出土の土器と類似しており、弥生時代中期初頭～前半に比定される。この時期の資料は県内では少なくまた、銚遺跡とは谷を挟んだ向かい側の台地上にあるので、遺跡の立地を考える上でも大変興味深い。

越田地区周辺では、今後も同様の開発行為が継続される可能性がある。越田遺跡の南側には、越田城跡も存在することから、埋蔵文化財の取り扱いは十分注意したい。

Ⅲ. 県指定史跡「富田村古墳」天神平支群の確認調査

1. 調査の経緯

県指定富田村古墳とは、昭和19年に旧富田村に所在した古墳の総称である。その分布は大字上富田・三納代・日置にわたり、実際の古墳のグループを捉えてはいない。近年ではその分布の集中を、富田古墳群・三納代古墳群と大別し、群の中にはさらに支群や単独墳が認められる。

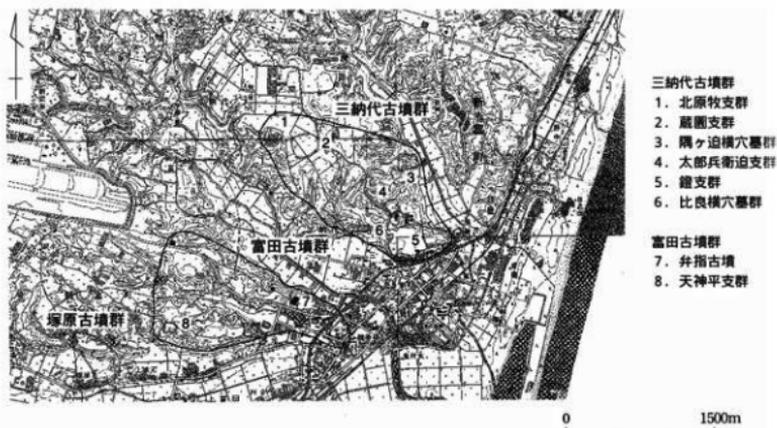
県内の県指定史跡は戦前に指定措置が行われ、地籍上の管理なものが多い。昭和55年に行われた古墳総点検事業によって所在不明な古墳や指定地番の変更、及び墳丘の崩壊が進んでいる実態が分かっている。

以上のことから、地籍上の指定地番にどのような古墳が所在するのかを確認することは急務といえる。そこで町教育委員会では、平成16年度から「富田村古墳」の所在確認を行っている。

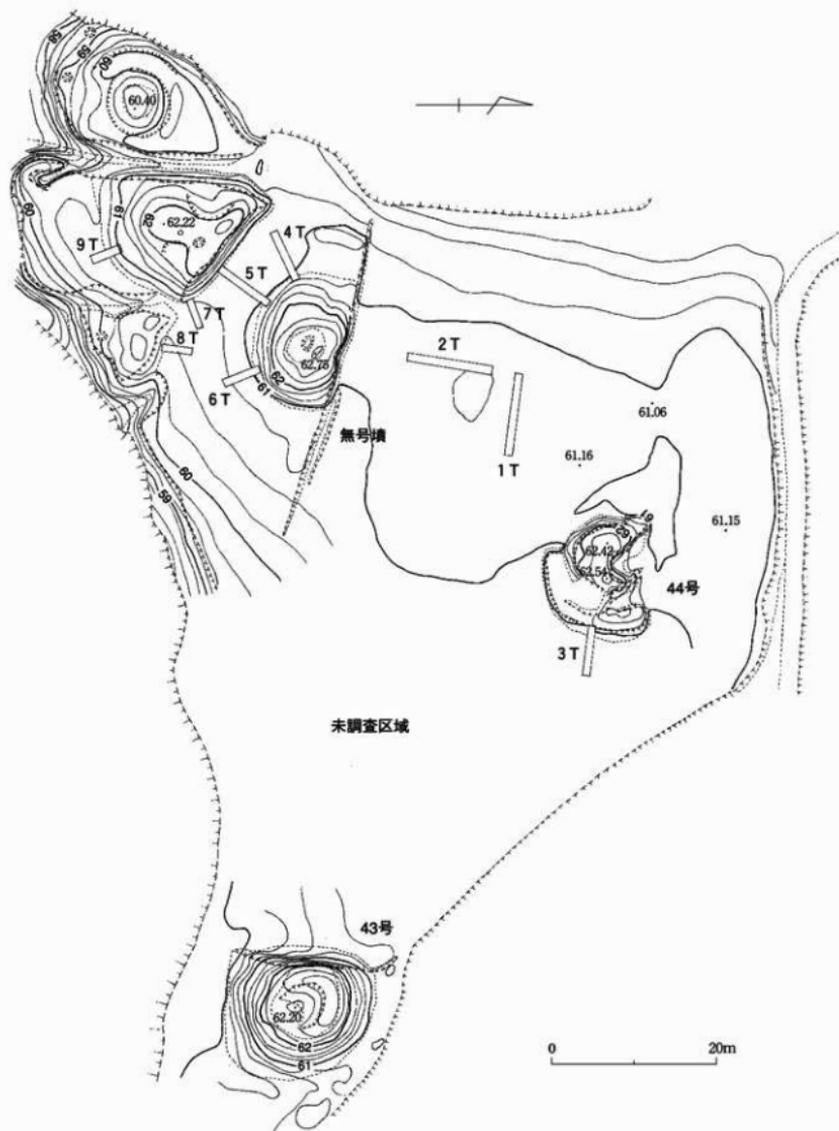
今年度は、県指定史跡43～51号が所在するとされる富田古墳群天神平支群の確認調査を行った。天神平支群は新田原台地の南東端部の標高60mに位置し、台地下の河岸段丘上には弥生時代から古墳時代にかけての住居跡が多数検出された上城元遺跡（旧北田地区遺跡）がある。また、約800m西には、前方後円墳3基を含む塚原古墳群が存在する。昭和55年に行われた古墳総点検事業では、先に挙げた9基の古墳のうち、43号と44号以外の古墳は所在不明となっており、天神平支群でも古墳の崩壊が進んでいる実態が明らかになっている。

調査にあたって、土地所有者の了解を得て対象地の樹木の伐採を行い、基準点・水準点の設置を業者に委託した。そして、等高線を25cmで表記した1/200縮尺の測量図を作成し、現存している古墳の位置と現状を確認するとともに、墳丘端部の状況や所在不明の古墳を確認するためのトレンチを設定した。

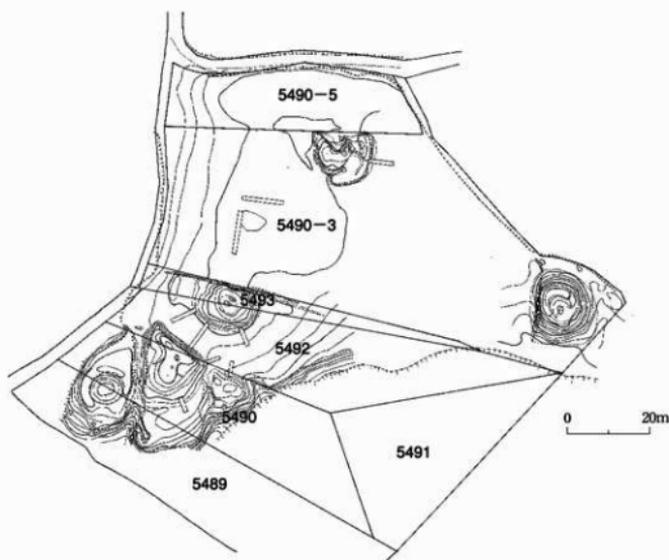
調査は、平成18年7月24日から開始し、9月15日に終了した。



第5図 県指定史跡「富田村古墳」分布図



第6图 天神平支群測量图



第7図 天神平支群と地籍図

2. 測量調査の結果

今回の測量で確認された古墳は3基である。一部等高線が抜けている箇所があるが、この部分は竹が密集して繁茂しており、時間的な制約から今回は調査できなかった。次年度以降調査を行う予定である。ただし、踏査による観察では、墳丘らしき高まりは認められていない。

次に地籍図と測量図を重ねたものが第7図である。指定段階では、5498番地に2基(43号と44号)、5496番地に3基(45～47号)、5497番地に1基(48号)、5500番地に3基(49～51号)が存在したとされている。その後、合筆が相次いで行われ5498、5496、5497番地は5490-3番地となり、5500番地は5490-5番地となっている。この結果、5490-3番地には6基(43～48号)、5490-5番地は3基(49～51号)の古墳が存在したとされているが、測量結果にあるとおり、3基の古墳しか確認できない。またうち1基は指定地番から外れていることから未指定の可能性があり、今回は仮に無号墳と呼称することとする⁽³⁾。5490-3番地に所在する2基は43～48号墳のいずれかに該当すると思われる。前回の総点検では東側にある古墳を43号墳、北側にある古墳を44号墳としてあることから今回もこれに従う。5490-5番地では古墳は確認できない。

確認された古墳はいずれも墳丘の崩壊が進み、とくに44号墳の崩壊は激しく、主体部まで影響を受けている可能性もある。墳丘規模は15～20m程と推定され、43号墳と44号墳では基石と考えられる礎が一部露出している。また、調査区南西側にも高まりが認められるが、これは戦時中に

砲台の台座として構築されたもので、古墳ではないと判断した。この付近には、いわゆる蛸壺塚と呼ばれる穴が多数存在し、崖下には特殊地下塚も確認されている。戦時中に大規模な地形の改変があったようである。地元の方によると、戦後この付近は畑として開かれその際に多くの古墳が破壊されたという話がある。

3. トレンチ調査の結果

墳端および所在不明の古墳を確認するため、9箇所のトレンチを設定した。1, 2トレンチでは、この場所が畑として使用されていたことを物語るトレンチヤーが検出されたが消滅墳の痕跡は確認できなかった。44号墳の墳端に設定した3トレンチでは葺石が検出されたが、いずれも原位置をとどめてはいなかった。また周溝も確認できなかった。無号墳の墳端に設定した4～6トレンチでも周溝は確認できなかった。なお、4トレンチでは縄文時代早期に相当すると思われる集石を検出している。

4. 小結

今回の調査で、天神平支群の古墳の多くが破壊され、残されている古墳も損壊が激しく危機的状況にあることが判明した。富田村古墳の多くで墳丘の破壊や指定地番の錯誤が認められ、古墳群全体の実態が把握し難い現状にある。次年度以降も調査を継続し、指定墳のデータ収集に努めたい。

IV. まとめ

今年度は開発行為に伴う越田遺跡 2 次調査と、県指定史跡「富田村古墳」の確認調査を行った。

越田遺跡の調査では、弥生時代中期初頭頃の遺物を確認した。この時期の資料は県内では類例が少ない。また、遺跡の立地も平坦面の少ない丘陵性の台地上であり、このような地形が当時、どのように利用されていたか興味深い。

富田村古墳天神平支群では、多くの古墳が破壊されていることが分かった。残っている古墳のなかには葺石をもつものもある。この地域の古墳の多くが古墳時代後期になると葺石をもたなくなることから、天神平支群の古墳は、古墳時代中期以前に築造された可能性が高い。指定段階に 9 基の古墳があったことが正しいとすれば、平成 16 年度に調査した太郎兵衛迫支群と同様、初期群集墳の様相を呈していた可能性がある。天神平支群については次年度以降も、所在不明の古墳の確認調査を行っていく予定である。

- (1) 有馬義人「町内遺跡」15 新富町文化財調査報告書 第27集 新富町教育委員会 1999
- (2) 面高哲郎「鎧遺跡」新富町文化財調査報告書 第 2 集 新富町教育委員会 1983
- (3) 無号墳については、墳丘北側が掘削されており、復元すれば一部が指定地内に含まれる可能性がある。



1. 越田遺跡全景



2. 越田遺跡作業風景



1. 4～5トレンチ



4. 2トレンチ



2. 1トレンチ



5. 3トレンチ



3. 7トレンチ



1. 5トレンチ



2. 6トレンチ



3. 出土遺物①



5. 出土遺物③



4. 出土遺物②